

2021年度西宮市予算案

歳入・歳出とも影響大

震災直後を除いて

過去最大規模の"コロナ対応"予算

西宮市の2021年度予算案が発表されました。一般、特別、企業会計の総額は3324億3000万円余で、前年度から1.0%増。当初予算の総額は、3年連続の増、阪神淡路大震災直後の1995年度を除いて過去最大の規模です。

市長は就任3年目の2020年度予算を“つぼみ”予算、4年目の新年度予算を“三分咲き”予算と特徴づけ、新年度当初予算案のポイントとして、①新型コロナウイルス感染症対策の実施、②待機児童対策をはじめとした喫緊の課題への対応、③GIGAスクールや業務効率化のためのICT活用を挙げました。

待機児童対策では、特区小規模保育所(1~3歳対象)を9か所整備し、4歳以降を公立幼稚園で預かり保育する事業を新たに開始。また、入所選考にAI(人工知能)を導入する予定としています。

③については、すでに国による予算措置で小中学生全員にタブレットパソコンが貸与されており、行政手続きのオンライン化(来庁不要な電子申請)も順次拡大するとしています。

2021年度予算総額

	2020年度	2021年度	増減額	増減率
一般会計	1930.80億円	1938.56億円	7.75億円	0.4%
特別会計	886.41億円	908.85億円	22.43億円	2.5%
企業会計	474.22億円	476.89億円	2.66億円	0.6%
総計	3291.44億円	3324.30億円	32.86億円	1.0%

一般会計歳出では、新型コロナウイルスワクチン接種事業(全額国費)やコロナ対策事業で、衛生費が32億8700万円増(前年度21%増)、第2庁舎(危機防災センター)の完成

で前年比33億3400万円減など。

一方歳入では、コロナの影響で個人市民税は前年度比2.5%減、法人市民税で36.6%減と見込んでいますが、地方交付税の増額(前年度比60%増)や、地方特例交付金の増額(同70%増)など、国による様々な財源措置が行われ、基本的には通常の財政運営を行うだけの財源は確保されています。

特別会計では、要介護認定者数の増加によって介護保険特別会計が前年比5.9%増。新年度は3年ごとの保険料改定の年ですが、基金を活用して保険料は据え置くとされています。

党議員団が公約に掲げ取り組んできた、国民健康保険料引き下げでは、新たな減免制度が創設されます。また、こども医療費助成制度の所得制限撤廃は、ようやく小学3年生まで広がることになりました。(記事は2面)

コロナ関連事業

新型コロナ対策

での緊急事態宣言が延長されました。陽性者数は一定減少しているものの、依然医療機関のひっ迫度は変わらず、引き続きの対応が求められています。特に、十分な補償、医療機関への減収補填、検査の抜本的拡充は、まず国が責任をもって行うことが必要であるとともに、自治体の取り組みも求められます。

高齢者施設でのクラスターが相次いでいることから、厚労省は緊急事態宣言が出ている10都府県に対し、3月までに集中的に職員等へのPCR検査等を行うよう通知。自治体は、施設の希望を確認した上で、検査の期間や入所者も検査の対象に含めるかなどの計画を12日までに提出することになりました。(現在市でも3月実施で詳細を検討中)この「社会的検査」の実施は、日本共産党が一貫して求めてきたもので、急務の課題です。

国の今年度第3次補正予算に対応する自治体交付金

事業(市独自策)は今後具体化されますが、市当初予算でのコロナ関連事業のうち、主なものは以下の通りです。

()内は予算額

- ・ワクチン接種事業…市の分担として、65歳以上高齢者から順次、各医療機関と特設会場(地域体育館、公民館など17か所)での接種を予定。(29億円)
- ・介護及び障害福祉サービス事業所の事業継続支援(介護6,400万円、障害1億700万円)
- ・介護者が感染し入院した場合に、高齢者・障害者を一時受け入れる施設を確保(714万円)
- ・要配慮高齢者等の自宅療養時に支援員派遣(2,800万円)
- ・保健所業務に対応する派遣職員配置(5,760万円)
- ・検査・入院医療費の公費負担(1億5,500万円)
- ・PCR検査センター(検体採取施設)の運営(5,580万円)
- ・児童福祉施設等の感染防止対策支援(1億4,800万円)
- ・4か月児健康診査の個別実施(3,820万円)
- ・妊婦への分娩前PCR検査費用助成(2,060万円)

新年度には、昨年10月パブリックコメントを行った、「ごみの指定袋制度導入」の条例や、介護保険料率、国民健康保険料率をそれぞれ決定する条例、こども医療助成制度の所得制限を見直す条例などの提案が予定されています。

また、今年度限りとなった高齢者交通助成制度(2020年度予算額約3億8000万円)にかわるものとして、健康ポイント事業、高齢者バス運賃助成事業、福祉タクシー利用券助成事業の拡充が始まります。



国保料減免新制度

高すぎる国民健康保険料を引き下げ

るために、市は2008年度より一般会計から国保特別会計への繰り入れを、また2018年度以降は基金からも繰り入れを行ってきましたが、2018年度に都道府県が保険者となって、国からこの繰り入れをやめるよう厳しい指導が続いてきました。

そしてついに市は、「赤字」とされる一般会計からの繰り入れ6億円を2019年度から6年間でなくす計画を策定しました。これをなくすと保険料が高騰するため、負担緩和策として新年度から新たな減免制度を創設します。(下の表参照)

新減免は、所得割を負担している世帯について、各月の加入人数に応じて所得割額の一定額(新年度は介護納付金分を含めた場合、一人当たり1,920円/年)を減額します。従来からの特別減免(所得の19%を超える保険料の一定額(1/4)を減額)と新減免は、申請の必要はありません。

これらとは別に申請によるコロナの影響による減免(受付3/31まで)や失業減免などもあります。党議員団までご相談ください。

年度	2019	2020	2021	2022	2023	2024	合計
赤字(繰入)削減計画	0	1000万	1億4000万	1億5000万	1億5000万	1億5000万	6億円
一般会計からの繰入額	6億	5億9000万	4億5000万	3億	1億5000万	0	—
基金からの繰入額	7億	3億	2億5000万	未定	未定	未定	—
新減免分の繰入額	—	—	1億	2億	3億	3億	—
特別減免分繰入額	1億	1億	1億	1億	1億	1億	—

こども医療費助成制度

現在、病院窓口での支払いに対し、①0歳児は無料 ②1歳から就学前までは所得制限なし、一部負担金無しまたは有り(外来1日800円を限度。月2回まで。入院1割負担。月3,200円を限度)または無し③小学1年生から中学3年生までは所得制限無しまたは一部負担金有り(同)で助成しています。

新年度には、小学1年生から3年生までを所得制限なし、一部負担金有りに拡充します。対象になるのは約5,200人。小4～中3までの約12,000人は、依然、対象外です。



一歩前進ですが、党議員団は、中学3年生までの完全無料化(所得制限なし、一部負担金なし)、さらに高校3年生までの無料化をめざし、がんばります。

健康ポイント制度

2021年10月から70歳以上の高齢者を対象に健康ポイント制度が始まります。歩数計(市が貸与)またはスマホアプリを活用し計測した歩数や、各種イベント参加に対しポイントを付与。ポイント数に応じて商品券などの景品(年間3,000円上限)と交換します。(株)タニタヘルスリンクに事業委託します。(開発運営委託費も含めて新年度予算額2億4,000万円)

高齢者バス運賃助成

1年以上住民登録をしている70歳以上高齢者に新年度は全員に登録申請を郵送、受付後、割引証を交付します。(以降は登録者のみに割引証を送付)5,000円を上限に半額助成。バス会社所定の売り場でハニカまたはランドパス65を購入・チャージする際に割引証を利用します。(9,000万円)

福祉タクシー利用券助成

要介護4、5の高齢者が対象の福祉タクシー制度(定額制)を、要介護3以上に拡げます。500円券を年間72枚(現在48枚)に拡充し、1乗車につき最大3枚までの利用が可能です。障害者・児対象の福祉タクシーも同様に拡充されます。(拡充分4,000万円)

その他

- ・公園リニューアル事業…バリアフリー化等で再整備(学文殿公園等、5,750万円)
- ・不登校児童生徒支援施設の拡充…瓦木地区、塩瀬・山口地区に設置(6,000万円)
- ・学校のトイレ環境整備…(8,820万円)
- ・学童保育施設整備…津門他4か所(設計委託)、春風他1か所(新築)、平木(学校教室改修)(4億5,600万円)
- ・特定不妊治療費助成…保険適用となる2022年度までの間所得制限撤廃や増額(3億円)
- ・給水スポット整備…プラごみ削減のために公共施設(20か所)に設置(380万円)

予算説明懇談会のご案内

西宮市2021年度予算案について説明し、懇談する会を以下のとおり開催します。ご意見等を予算分科会での審議に生かしたいと思っておりますので、ぜひご参加ください。

① ② **3月6日(土)10時から12時**
③ ④ **西宮市民会館501会議室**

*コロナ感染拡大の状況により中止する場合があります。